

多目的樹木ヒッコファエの増殖技術の開発



写真-1 ヒッコファエの園場(むかわ町)



写真-2 収穫期を迎えた果実



写真-3 挿し木によるクローン増殖



写真-4 組織培養によるクローン増殖

ヒッコファエ・ラムノイデス(学名:*Hippophae rhamnoides* L., 写真-1)は、ユーラシア大陸の中・北部に自生する落葉広葉樹です。“スナジグミ”の和名もありますが、一般的には“ヒッコファエ(属名)”や“シーベリー(通称)”、“サジー(中国名)”の名前で呼ばれています。8月から9月に収穫期を迎える果実(写真-2)には、柑橘のような爽やかな香りがあり、甘酸っぱく、有用なビタミン類や油脂を多く含んでいます。主要な栽培国(ロシア・中国・北欧)では、果実をジャムやジュースなどの食品や医薬品、化粧品などの原料として利用するほかに、乾燥や塩分のある土壌にも生育することから、砂漠や海岸の緑化植物としても使われています。国内では果実の収穫を目的として、1990年代後半から海外で育成された品種の導入がはじまり、北海道内でも新しい地域資源としての期待の下に産地形成が進められています。

現在、ヒッコファエの普及と栽培拡大を進める上で解決すべき課題は、市場における苗木の流通量が不足しており、他のベリー類の苗木と比べると流通価格が高いことです。このことから、林業試験場では民間企業と共同研究を進め、品質の良い苗木を低コストで大量に供給する苗木生産システムの構築を目指して、挿し木や組織培養を活用した技術開発(写真-3、4)に取り組んでいます。

(緑化グループ)

林業試験場 本 場 TEL 0126-63-4164 FAX 0126-63-4166
道南支場 TEL 0138-47-1024 FAX 0138-47-1024
道東支場 TEL 0156-64-5434 FAX 0156-64-5434
道北支場 TEL 01656-7-2164 FAX 01656-7-2164
ホームページ <http://www.fri.hro.or.jp/>

発行年月 平成25年9月
発 行 地方独立行政法人
北海道立総合研究機構
森林研究本部 林業試験場
〒079-0198 美唄市光珠内町東山